Iqシステム　大組大払手順書

160810

Iqシステム　大組大払作業手順書

実施日	実施者	役職	印	印	印
平成　　年　　月　　日					

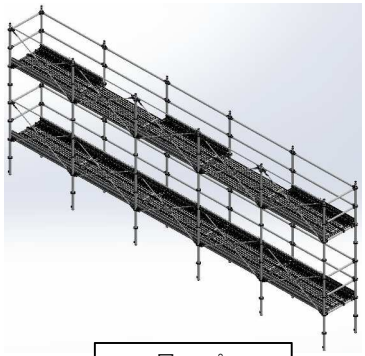
工事名		使用機械		必要資格	
作業名		使用工具			
作業員数		使用材料			

リスク度		評価	
9	極めて大きい	◎	即座に対策が必要
6	かなり大きい	○	抜本的な対策が必要
3～4	中程度	●	何らかの対策が必要
2	かなり小さい	△	現時点では対策不要
1	極めて小さい	×	対策不要

			程度		
			軽微 1	重大 2	極めて重大 3
頻度	ほとんど起きない（5年に1回程度）	1	極めて小さい 1	かなり小さい 2	中程度 3
	たまに起きる（1年に1回程度）	2	かなり小さい 2	中程度 4	かなり大きい 6
	かなり起きる（半年に1回程度）	3	中程度 3	かなり大きい 6	極めて大きい 9

作業工程	作業項目	危険・有害要因	程度	頻度	リスク度	評価	危険・有害要因の防止対策案	防止対策実施者	対応の評価	危険・有害要因の防止対策実施措置	実施状況の確認
大組による Iqシステム組立	1）最大2層5スパンごとに地組する ① 支柱3800を使用する ② 支柱3800の下から2つ目のフランジを最初の作業床として組み立てる	・機材の落下	2	2	4	●	・声を掛け合って材料の受け渡しを行う ・機材は落下しにくい向きで仮置きし、足元や周囲を確認しながら作業する ・くさびを確実に利かせる	作業員			
		・作業員の墜落	3	2	6	○	・無理な体勢で作業しない ・安全帯を使用する	作業員			

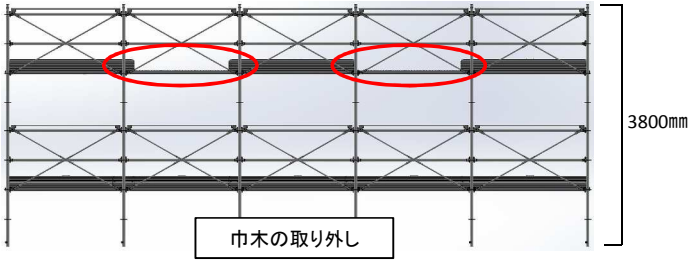
【手順図　1　】



2層5スパン

【注意事項】

※1　ワイヤーロープが干渉してしまう為、下図赤丸部（2層目の両端から2スパン目）には巾木を設置しないで下さい。



※2　支柱3800を使用して下さい。
※3　前踏み側2段手すり、外踏み側先行手すりで組み立てて下さい。
※4　昇降部は別途設けるか、大組したあとに取り付けて下さい。

※5　大組大払は条件に応じて以下の大きさ以内で行って下さい。

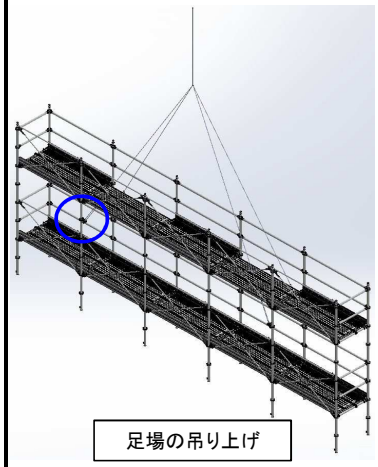
大組・大払　最大スパン・層数表

足場の幅	1219mm	914mm	610mm
1列	2層5スパン		

※6　2列にして大組大払を行う場合、足場の幅は610mmとし2層4スパン以内で行って下さい。

大組による Iqシステム組立	2)ワイヤーで吊る	・足場の転倒、落下	3	2	6	○	・吊り上げる前に必ず各部材のロックが利いていること を確認する ・玉掛け作業は必ず有資格者が行う ・吊荷の下に人が入らないよう徹底する ・吊位置、吊角度が問題ないか確認する	玉掛け者			
		・吊荷の接触	2	2	4	●	・小物は吊袋を使用して荷揚げする ・介錯ロープを使用する	玉掛け者			

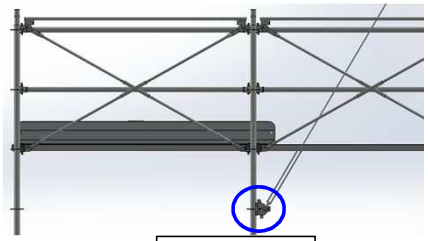
【手順図 2 】



足場の吊り上げ

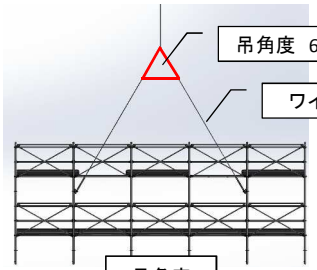
【注意事項】

※1 吊元は必ず下記青丸部(両端から2本目の支柱の最上部から4つ目のフランジ)を使用し、4点吊して下さい。
※2 吊角度は60° 以下として下さい。(下図 「吊角度」 参照)
※3 ワイヤーロープは手すりや先行手すりの内側を通して下さい。
※4 ジョイントしやすくする為、既設の足場及び大組する足場の通りをしっかりと出し、それぞれレベルが合っているか確認して下さい。
※5 階段・階段手すり・シート類付けて大組する場合は番線等で確実に固定し、落下等の危険がない状態で行って下さい。



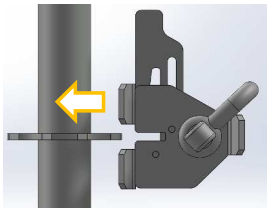
吊位置詳細

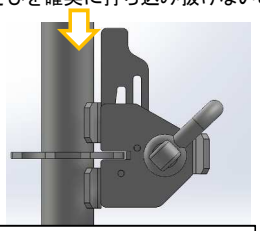
ワイヤーロープ
取付詳細

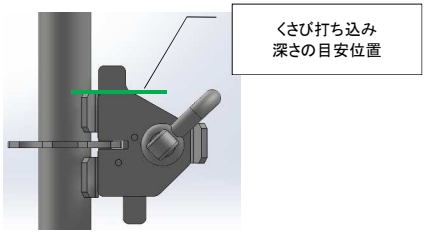


吊角度

※6 専用吊治具を用いる場合は、くさびを確実に打ち込み抜けないことを確認してお使い下さい。







専用吊治具の取付方法

①フランジを挟みながら支柱
に押し当てます。

②フランジにくさびを打ち
込みます。

③くさびが利いていること
確認し、取付完了です。

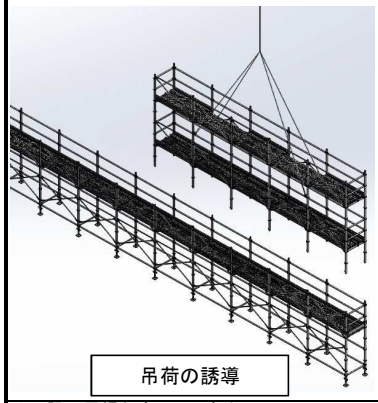
※7 専用吊治具を用いずにベルトスリングを用いる場合は、フランジの下でチョーク吊りとして下さい。
※8 荷揚げに使用する各部材は、右記に記載されているものを参考にお使い下さい。
※9 ワイヤーは使用前に必ず点検し、よじれや摩耗がないか確認して下さい。
※10ワイヤーは同じ長さのものを使用して下さい。
※11吊り上げ前に必ず各部材のロックが利いていることを確認して下さい。
※12吊荷は介錯ロープを使って誘導し、吊荷の下には入らないで下さい。

部材規格表

品名	規格・品番	使用荷重
専用吊治具	―	1.5t / 2個 ※4個4点吊、吊角度60°
ワイヤーロープ	6 × 24 A種、公称径 12㎜ 全長 5.5m	3.0t / 4本 ※4本4点吊、吊角度60°
専用吊治具用 シャックル	SC 呼び 16	1.5t / 個
ベルトスリング	G25-15 ベルト幅 25㎜、全長 1.5m	0.88t / 2本 ※チョーク吊、吊角度60°

大組による Iqシステム組立	3)既設の足場に近づける ①吊荷が周辺の施設や部材等に接触しないよう、介錯ロープ等で吊荷を操りながらジョイント箇所に近づける	・手指が挟まれる	1	2	2	△	・支柱ジョイント部には手を入れない	作業員			
		・足場の転倒、落下	3	2	6	○	・支柱ジョイント部を確実にロックする	作業員			
							・確実にジョイントできていることを確認してから吊り具を外す	玉掛け者			
		・吊荷の接触	2	2	4	●	・小物は吊袋を使用して荷揚げする ・介錯ロープを使用する	玉掛け者			

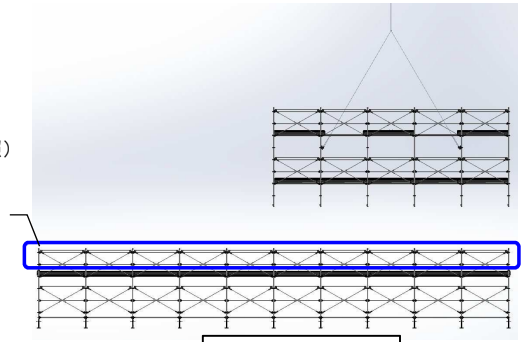
【手順図 3 】



吊荷の誘導

【注意事項】

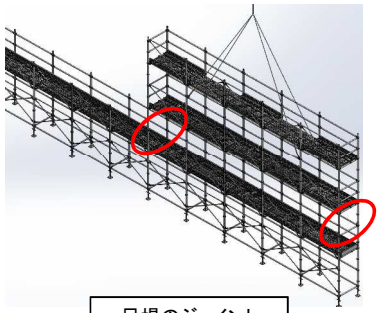
※1 大組する足場は荷揚げの際に仮吊りを行い、バランスが安定していることを確認してから吊り上げて下さい。
※2 必要に応じて立ち入り禁止区域を設定し、しっかりと表示して下さい。
※3 手すりや先行手すりにはワイヤーをかけないで下さい。
※4 吊り上げる際は各部材が外れていないか確認して下さい。外れていた場合は復旧したうえで吊り上げて下さい。
※5 既設足場のジョイント部付近で必ず壁つなぎを取り付けて下さい。(右図 「壁つなぎ位置」 参照)
壁つなぎがない状態では大組をしないで下さい。
※6 吊荷は介錯ロープを使って誘導し、吊荷の下には入らないで下さい。
※7 玉掛け作業は必ず有資格者が行って下さい。
※8 クレーンオペレーターへの指示は必ず行って下さい。



壁つなぎ位置

	4)既設の足場とジョイントする ①両端部の支柱ジョイント位置を合わせ、ゆっくりとジョイントさせる ②支柱のジョイントが利いていることを確認し、吊治具を取り外す	・手指が挟まれる	1	2	2	△	・支柱ジョイント部には手を入れない	作業員			
		・足場の転倒、落下	3	2	6	○	・支柱ジョイント部を確実にロックする	作業員			
							・確実にジョイントできていることを確認してから吊り具を外す	玉掛け者			
		・吊荷の接触	2	2	4	●	・小物は吊袋を使用して荷揚げする ・介錯ロープを使用する	玉掛け者			

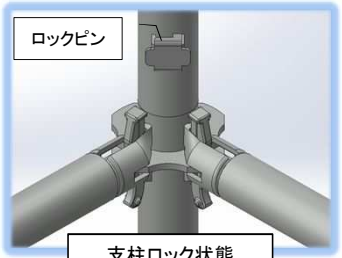
【手順図 4 】



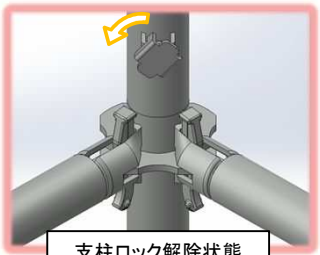
足場のジョイント

【注意事項】

※1 部材の破損を防ぐ為、吊荷はゆっくりと着地させて下さい。
※2 ジョイント後は、支柱のロックが利いているか確認して下さい。(下図参照)

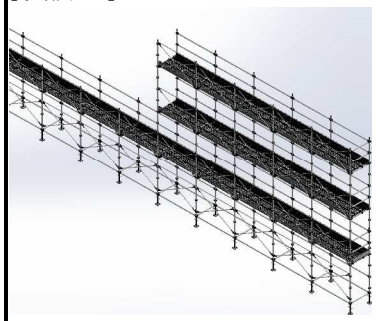


支柱ロック状態



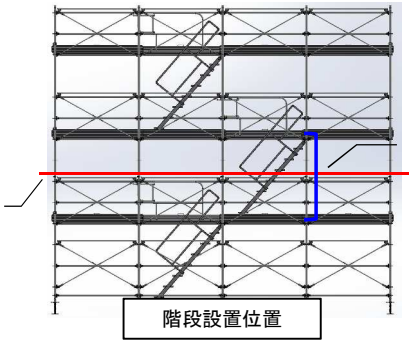
支柱ロック解除状態

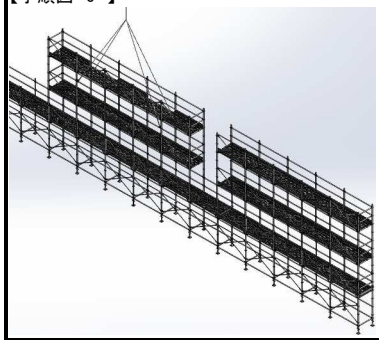
大組による Iqシステム組立	5）一部部材の付け外し ①吊り上げの為に外していた最上部の巾木を復旧する ②昇降部材等、その他必要な部材の復旧・撤去を行う 【手順図 5 】	・機材の落下	2	2	4	●	・声を掛け合って材料の受け渡しを行う ・機材は落下しにくい向きで仮置きし、足元や周囲を確認しながら作業する ・くさびを確実に利かせる	作業員			
		・作業員の墜落	3	2	6	○	・無理な体勢で作業しない ・安全帯を使用する	作業員			
	6）1スパン開けて次のブロックをジョイントする 【手順図 6 】	・手指が挟まれる	1	2	2	△	・支柱ジョイント部には手を入れない	作業員			
		・足場の転倒、落下	3	2	6	○	・支柱ジョイント部を確実にロックする	作業員			
							・確実にジョイントできていることを確認してから吊り具を外す	玉掛け者			
	7）大組したブロック間の部材を取り付ける ①先行手すり、布板、手すり等必要な部材を取り付ける	・機材の落下	2	2	4	●	・声を掛け合って材料の受け渡しを行う ・機材は落下しにくい向きで仮置きし、足元や周囲を確認しながら作業する ・くさびを確実に利かせる	作業員			
		・作業員の墜落	3	2	6	○	・無理な体勢で作業しない ・安全帯を使用する	作業員			



【注意事項】

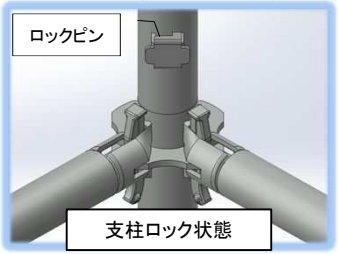
※1　階段は支柱のジョイント部をまたぐ形で取り付けて下さい。
　　（右図 「階段設置位置」 参照）
※2　支柱のジョイント部付近では必ず壁つなぎを取って下さい。

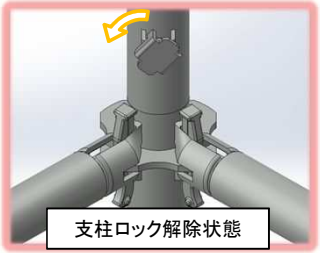


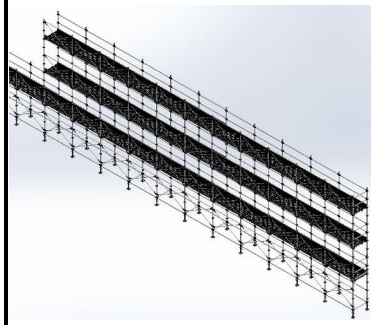


【注意事項】

※吊荷は介錯ロープを使って誘導し、吊荷の下には入らないで下さい。
※玉掛け作業は必ず有資格者が行って下さい。
※クレーンオペレーターへの指示は必ず行って下さい。
※部材の破損を防ぐ為、吊荷はゆっくりと着地させて下さい。
※ジョイント後は、支柱のロックが利いているか確認して下さい。（右図参照）



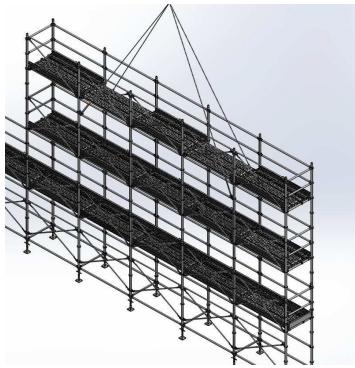


<table>
<tr><td rowspan="2">大組による
Iqシステム組立</td><td colspan="2">【手順図 7 】
  </td></tr>
<tr><td>8）以降計画図に応じて繰り返し</td><td></td></tr>
</table>

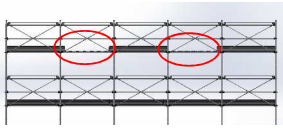
大払による
Iqシステム解体

大払による解体は大組による組立に準じ、逆の手順で行う。

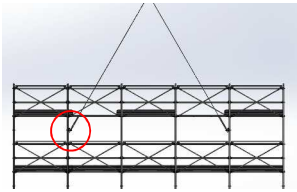
【手順図　8　】

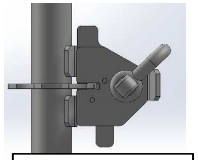


1）ワイヤーロープが干渉する部分の
幅木の取外し



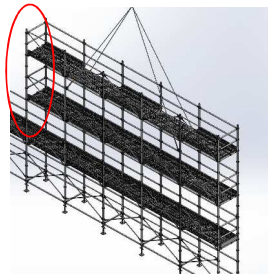
2）ワイヤーロープの設置



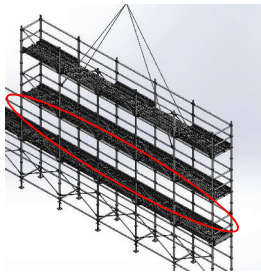


専用吊治具取付状態

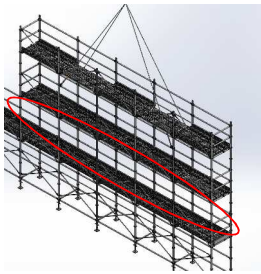
3）大払するブロック間の部材の取外し

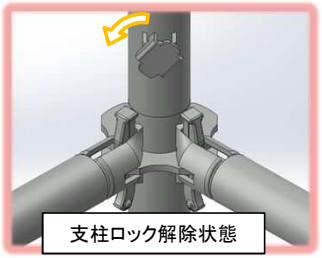


4）階段部材等、支柱のジョイント部を
またぐ部材の取外し



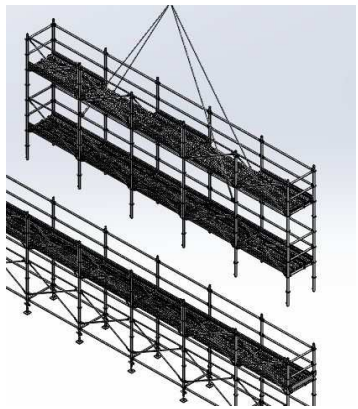
5）支柱ロックピンの解除





支柱ロック解除状態

【手順図　9　】

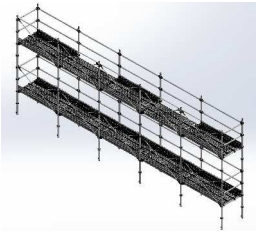


6）大払するブロックの吊上げ

【注意事項】

※吊上げる際は、少し吊上げ支柱ジョイント部のロックが利いていないことを
確認してください。

7）大払したブロックの解体



8）以降、順次繰り返し